

じゃりみち

…仮設支援情報…



【第1面】

第6号 発行日 1995. 11. 9

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

仮設住宅支援連絡会

TEL: 078-362-5951 / FAX: 078-362-5957

E-mail: ngoteam@mb.osaka.inetweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

♡全体会のお知らせ♡

次回全体会は

日時: 11月15日(水) 18:00~20:00

場所: 毎日新聞神戸ビル3F第1ホール(NGO連絡会議の隣の部屋)です。

== 前回全体会の報告 ==

前回の全体会では、10月18日に出された防火・すきま風対策について、被災者復興支援会議から、消火器を11月中に2戸に1つの割合で設置されることや、クーラーしか付けられていない高齢者障害者用地域型仮設については、ホットカーベットを希望者に配布すること等の回答をいくつか頂きました。

また、正村氏の各地の災害地での冬対策についてのレクチャーをもとに話し合われました。

※※学習会『かせつ寺小屋』から※※

「自立支援」をテーマに、第一回目の学習会「寺小屋」が11月1日(水)に行われました。今回は朝日新聞編集委員の秦洋一氏を講師に迎え、秦氏自らがボランティア活動を行った筑豊炭田での話や、最大の人災である戦争の話为例に、被災者に視点を当てた問題提起がされました。

講演後の協議の中では、参加者から「住民の話や愚痴を聞くだけしかできない」という活動 を続ける中での悩みが出されました。

被災したことで、それまでの人生で築き上げてきたもの、家や生活環境、家族を無くされた等、様々な傷を負った人々に対して「住民の声に耳を傾ける」ということが、同じ市民として私たちボランティアができる大切な役割であるとともに、そのことから、もっと被災者の心に近づき、私たち自身が学んでいくという姿勢が、今大切なことなのではないでしょうか。

★仮設支援キャラバン in 姫路玉手★

姫路には4カ所・569戸もの仮設住宅があるのをみなさんご存知ですか？

しかも仮設に入っておられる方は、みなさん神戸市民なのです。

今回、姫路の中でいちばん大きい玉手仮設(364戸)で仮設キャラバンとしてイベントを行いました。

このイベント行うにあたって、ちびくろ救援ぐるうぷ・グループアバウト・poco a poco 鷹取・週末ボランティア・こころのケアネットワーク姫路、それに長野県の松本からバザーのための物資・長野名産のりんごを持ってきたサポート神戸・・・というんな団体に協力して頂きました。ありがとうございます。イベントの主旨としては、ボランティアのみで炊き出しなり、バザーなりをやるのではなく、仮設の住民の方々と一緒にイベントを立ち上げることによって、ボランティアと住民(自治会があるところは役員の方々)とのコミュニケーションができあがり、また、今後よりよい関係を保っていければというものです。今回は、それが実際にすることが出来たな、と(僕は)思います。

イベント内容としては、カレーの炊き出し・日用品等のバザー・長野産のりんごと野菜のバザー・お茶会と、結構賑やかなものができあがりました。住民の方々には、カレーの料理手伝いや、バザーの売り子さんとして、ご協力頂きました。また、150人ほどの住民の方々がイベントに来ておられました。

今後このような意義あるキャラバンをどんどん行っていきたいと思っております。

<隆太>

仮設キャラバン第3弾・第4弾予定！

11月11日 北区星和台仮設 11:00~
すたあと長田、SVA、桜亭、ちびくろ等でバザー・茶話会・ミニライブを予定しています。

11月12日 垂水区新多間仮設 いれあいまつり 10:00~
poco a poco、アバウト、ちびくろ等で炊き出し・バザーを予定しています。

問い合わせ先: 仮設住宅支援連絡会事務局 (鈴木)

EVENT 情報♪♪

★西区学園東町第2仮設 茶葉茶葉タイム

11月13日 10:00~12:00

茶話会をします！お年寄向けの衣類(新品・新品同様)募集しています。

問い合わせ: 2234外岡 792-0236

★被災障害者復興フェスティバルin須佐野公園

11月18日 11:00~16:00

バザー・焼きそば、焼き肉・韓国民族楽器演奏etc

問い合わせ: 被災地支援センター 531-9511

★学習会 「震災と障害者」

11月23日 13:00~

無料。兵庫県立教育会館3F

神戸の身障者とのパネルディスカッションやミニ劇etc

問い合わせ: 被災地障害者センター 531-9511

★週末ボランティア募集

東谷第2の仮設訪問しす。

日時: 11月11日、11月18日13時~17時半

どちらも地下鉄西神南駅13時集合

また、11月23日(祝)にボランティアの心のケア-秋空ハイキングを企画中です。

問い合わせ: 週末ボラ795-6499(東條)

◆ 全国仮設放浪記 ◆



過去の災害において夏・冬対策を考えると、島原・深江と奥尻が上げられる。島原・深江以前の災害においては、土地柄や季節に関係なく、夏・冬対策等の報告がない。これらの災害は、かなりの部分特例が認められたと言う事を最初に挙げておく。

まず最初に、島原における夏対策を考えてみる。島原での災害は火山災害であった。仮設住宅を建設する時に問題にされた事は夏対策であり、当初クーラーの設置にあたっては、災害救助法による仮設住宅入居の対象者が生活保護法のラインに沿っている事を考えて、クーラーは贅沢品になるのでは？という意見が出された。しかし当時断続的な火砕流による降灰等が相次ぎ、窓を開ける事が実質不可能であると言う事から火山災害による特例として、全戸にクーラーを設置した。島原・深江の冬対策は、平成3年1月15・16日両日にコタツ、同年12月25・26日に電気カーペットを全戸に配布した。この時は電気代等の補助は行われなかった。

ついで奥尻を例に上げてみる。奥尻は25度を越える夏日が数回しかない。そのため反対に冬対策を中心に考えられた。仮設住宅を建設する段階から、耐雪設計され、断熱材を使用した。そして全戸に対して灯油ストーブを設置した。またストーブの灯油補助を行った。北海道のストーブは外にタンクを置きパイプで室内の本体に流して燃焼させ、煙突で外に排出する形で、灯油タンクが一体化している物とは、構造的にかなり異なる。そのため安全性においても燃焼部分がむき出しになっている物と比べると随分違う。灯油補助については約900～1100リッターの補助を行い、その資金は義援金から支出した。そして全戸に対して消火器を設置した。

島原より過去の災害では昭和57年7月23日の長崎大水害では、クーラーの設置は行っていないし、昭和58年6月28日の日本海中部地震ではストーブの灯油補助は無かった。それらを考えると島原・深江と、奥尻が特例であった事がわかる。

阪神・淡路大震災ではかなりの数の仮設住宅があり、島原や奥尻などの様に区域単位で青年団や消防団も一緒にと言うわけでは無くバラバラである事から、仮設住宅のある地域を管轄する消防署等と連携していく事や、それらの機関と協同で防火訓練等を行う事も、ひとつの案ではと思う。

情報コーナー

○苗木の配布・「すっぽん鍋」の炊き出しの場所募集

「出あいの村」大分里親協会では、今月25日(土)・26日(日)に、仮設住宅などでの苗木の配布を予定しています。また、250～300人分のすっぽん鍋の準備もあります。被災地周辺での苗木の配布、すっぽん鍋を行う場所を探しています。協力して下さる団体は下記までお知らせ下さい。

「出あいの村」大分里親協会 代表：安東
TEL：0975-43-4445 FAX:0975-44-3071

○指圧の出張サービスします

三和針灸診療所の穂崎さんが指圧の出張サービスをしています。できれば、交通の便利のいいところをお願いいたします。詳しくは仮設住宅支援連絡会の山田までお問い合わせ下さい。

< 仮設は今... >

◇ 東灘区 (地域型) 編 ◇

震災から早10ヶ月がたち、私たち毎日ボランティア交流会も東灘区御旅公園内地域型仮設住宅で茶話会「ぼちぼちいこか」を始めて5ヶ月になります。この仮設は、高齢者・身障者用に建てられた仮設住宅で、6畳または4・5畳の部屋に共用の台所、トイレ、風呂が設けられています。7月頃にふれあいセンターが建つとの情報が入り喜んでいたのですが、未だに基礎さえできていません。これから寒い時期に向かい、どうやって茶話会を続けていこうかと悩んでいたところ、住民の方々から仮設の廊下を使おうという声が出て、2度目の廊下開催となりました。通路が狭い、足の悪い方が座りにくい等、色々な問題を抱えての茶話会でしたが、私たちも人数が少ないので仮設の方が段々手伝って下さる様になり、これを機に友達が出来たとの声も聞かれるようになりました。その反面、設備が共同使用の為使い方に困ってトラブルが多数発生し、慣れるに従って様々な問題が起こっています。相談員が2名配置されていますが、9時から5時、月から金曜の勤務なので、不在時の不安も聞かれます。住民の過半数が高齢年金・生活保護受給者だそうで、先の目途も立たないまま再び仮設から新しい土地へ移り住まねばならない不安は計り知れないものだと思います。被災者用低家賃住宅が元いた所に来次第、一日も早く戻りたいとの声を耳にします。病気を抱った住民の方は、友達に会えるからと遠いにもかかわらず元の病院へ通院されています。猫に食事を与える為に、毎日往復1時間も歩いて帰っている方もおられます。住み慣れた所がいいと週半分の半分はテントに戻っている方も居られます。皆さん元の地域に戻りたいのです。それにしても、神戸には何と一人暮らしの高齢者の多いことか、私自身の認識不足に愕然としました。ところで、ここには車椅子の方が数える程しか住んで居られません。仮設を見学に来た身障者の多くは、ここには住めないと辞退されるそうです。名と実の違う地域型仮設住宅は、一体誰の為に建てられたものでしょう。

最近、時と共に生活環境にも慣れて、花を植えたり散歩したりする光景も目にする様になりました。茶話会も定着し、毎回多くの方が集まって来られます。私たちも来年の春を目途に自分たちの生活に戻ろうということで、とりあえず休憩をすることにしています。その後、住民主体、私たちはサポートというスタイルの茶話会が再び催せたらいいなあと、その方向性を現在模索中です。

事務局から

第1回の学習会「仮設寺子屋」に出席されたみなさん、如何でしたでしょうか？

ご意見・ご感想を募集しています。今後の参考にさせていただきます。

「じゃりみち」は自動送信でFAXしておりますので、深夜に届くこともあります。不都合でしたら、「じゃりみち」編集部までご連絡下さい。

TEL 078-362-5951

